

質問紙調査から見える児童・生徒の姿

(表3) 質問事項	小学校6年生				中学校3年生			
	国	県	大山町	全国との差	国	県	大山町	全国との差
自分には、よいところがあると思う	76.9	78.8	80.9	4.0	76.2	78.5	79.0	2.8
人が困っているときは進んで助けている	88.7	88.8	81.0	-7.7	88.5	88.7	85.5	-3.0
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	96.8	97	94.3	-2.5	95.9	96.3	96	0.1

(表4) 質問事項	小学校6年生				中学校3年生			
	国	県	大山町	全国との差	国	県	大山町	全国との差
今住んでいる地域の行事に参加している	58.1	74.7	75.3	17.2	43.7	53.4	60.5	16.8
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある	52.4	53.4	54.2	1.8	43.8	45.6	51.6	7.8

「子ども達のよさを認める等、大人の適切な働きかけが重要!」

「自分には、よいところがあると思う」(表3) という項目について、小学校では肯定的な回答割合が全国と比較すると高い結果となっています。また、中学校でも、全国平均よりも高い結果となっています。「人が困っているときは進んで助けている」(表3) という項目については小学校、中学校ともに全国平均よりもやや低い結果です。

『子どものよいところをほめる』『子どもに努力することの大切さを伝える』『子どもに最後までやりぬくことの大切さを伝える』『地域社会などでのボランティア活動等に参加するよう子どもに促す』等は子ども自身の自尊感情を高める大切な取り組みであり、周囲の大人たちが生き方の良き手本となることが重要だと言われています。

また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」(表3) という項目は、小学校は全国平均よりもやや低い結果となっています。小中学校で教科化になっている

「道徳」をはじめ、学校や家庭のいろいろな機会をとらえながら、「いじめは絶対にしてはならない」「自分も周りの人も大切にすると」という気持ちを育てていかなければならないと考えます。

「ふるさと教育を通して、自分自身にできること」

「今住んでいる地域の行事に参加している」(表4) については、全国平均と比較するとかなり良好な結果となっています。また「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることができる」についても、高い結果となっています。ふるさと教育が充実していることの表れだと思います。

大山町の小中学校では、「音読ボランティア」「米作り・野菜作り」「スキー教室」「職場体験学習」「赤ちゃんふれあい会」など、地域の方々の協力を得ながら、学習に取り組んでいます。各学校がふるさと教育を推進し、地域の方々とつながりを大切にした取り組みを行っています。が、与えられた活動に取り組むだけでなく、自分で何ができるのか、ど

のように取り組めば良いのかなど、自主的に課題に関わる力を育成することが大切です。

「早寝早起き朝ごはんの大切さ」

その他、基本的な生活習慣に関する設問もあります。「朝食を毎日食べている」については、小学生は、ほぼ100%の子供達が「食べている」と答えており全国平均を上回りました。中学校も全国平均を上回っています。食育を含めた生活習慣の大切さを各家庭が理解していただいている結果です。

文部科学省の研究結果によると、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日同じくらいの時刻に起きる」「朝食を食べている」の3つの項目ができている子どもほど、テストの平均正答率が高い傾向にあると言われています。

引き続き、学校でも基本的な生活習慣の大切さについて学習するとともに、毎日を元気に楽しく過ごす子ども達を育てていきたいと思えます。

